

開園以来 60 年余りが経過する中、子どもと子育てを取り巻く環境はもちろん、児童養護施設の置かれた状況も大きく変化してきた。この間に愛童園から社会に巣立った、あるいは家庭等に復帰した児童は 334 名を数える。

近年の施設入所児童は、親からの虐待体験や離婚、貧困などを背景として、個々の児童の特性に配慮した支援が必要となっており、職員には高い専門性とケアワークが必要となっている。加えて、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への感染予防を踏まえた施設運営が求められた。

このような状況のなか、愛童園では、昨年度の分園型に続き本館でも小規模ユニットによる養育をスタートさせ、家庭的な養育環境のもとで、子どもたちの心身の健やかな成長と社会的な自立を目指し、関係機関や地域社会と連携を図りながら次のとおり取り組みを進めた。

#### ◎令和 4 度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

##### (1) 児童の権利擁護

- ① コロナ禍で、各種行事の中止が相次ぐなか、園内研修や Web 研修などを通して、養育者としての倫理観や責任感を持って児童に対応できるよう資質の向上を図り養育にあたった。
- ② 日々の養育のなかで「こどもの最善の利益」を常に意識して養育にあたるとともに、児童の意見を聞いた上でのルール作りや自立支援計画の作成、意見箱の設置等により、児童の意見を表明できる環境整備に努めた。

##### (2) 児童の養育・支援

- ① ユニット単位での養育を進めるにあたり、既存のマニュアルの見直しを行い、児童が安心して生活できる家庭的な養育環境の提供に努めた。
- ② 在園児童の半数以上が心理療法を必要としており、発達障害や知的障害のある児童に対し、自立支援計画の中に児童の心理的支援目標を設定し、処遇職員会等での協議や情報共有などを通して施設全体で計画的な支援に取り組んだ。
- ③ 日常的な生活援助と併せて、学習の定着を図るため宿題等の支援を行うとともに加力学習の時間も設定し学力の定着を図った。また、児童が自ら選択できるよう必要な情報の提供や助言を行うとともに、児童の希望したところに進学できるよう関係機関と連携し支援を行った。

#### ◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

○個別対応児童数	11名
○個別対応年間実施日数	50日
○1日当たり平均実施時間	30分

◆心理療法

- 心理療法対象児童数 12名
- 年間延べ対応日数 220日
- 一人当たり平均実施時間 45分

◆令和5年3月に中学校、高校を卒業した児童の進路状況

児童	区分	性別	進学	就職	その他	進路等の状況
1	中学	男	○			県立高校普通科
2	中学	男	○			県立特別支援学校
3	高校	男	○			大阪府専門学校

(3) 家庭支援と自立支援の強化

- ① 家庭支援専門相談員を窓口として児童と家庭との関係調整を図った。また、児童と家庭の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを児童相談所と調整し、コロナ禍のなか可能な範囲で実施した。
- ② 自立支援担当職員を配置した支援活動は年間を通して実施できなかったが、児童の自立に向けた情報の提供や援助、自立生活が安定していない卒園生への助言、見守り支援を継続して実施した。

(4) 事故防止と安全対策

- ① マニュアルに基づき、事故や感染症の予防を図った。特に、新型コロナウイルスへの対応は、体調管理、手洗い、咳エチケット等の感染防止対策に徹底して取組んだが、一部児童や職員が感染する状況となった。
- ② 防災対策マニュアルに基づき消火訓練、避難訓練を定期的に実施した。
- ③ 毎職員会において、危険な箇所等の確認を行うとともに、交通安全についても意識の徹底を図った。

(5) 社会的養育の推進

- ① 令和3年8月からの分園型小規模グループケアの運用開始に続き、4月から本館での小規模グループケア(1ユニット)の運用を開始した。
- ② 家庭との連絡がほとんどない児童に対して里親委託やフレンドシップファミリーの活用を行った。また、里親関係の各種会合、研修会に参加するとともに、関係機関と連携のもと里親実習生を受け入れ、里親育成にも努めた。

(6) 関係機関連携と地域支援

- ① 要保護児童対策地域協議会や香南市地域貢献連絡協議会、香南市人権教育研究協議会、香南市補導センター運営委員会などへの参加を通じて、地域課題の把握や解消に協働して取り組んだ。
- ② 学校と定期的な支援会の実施や児童相談所との連携のもと、児童の支援状況や家庭も含めての情報の共有に努めた。また、子育て短期支援事業(ショートステイ)の受け入れを行った。

(7) 職員の資質と施設運営の向上

- ① 新型コロナウイルス感染症防止のため、Web研修など職務に影響のない範囲で研修の機会を確保し職員のスキルアップを図るとともに、園内研修も適宜企画し職員の資質向上に努めた。
- ② 情報共有システムを活用し、日々の予定や児童の記録を職員が共有し、職員会やケース会などで確認することで児童の処遇に反映させるとともに、事務の効率化も図った。

◆各種研修会等への参加状況

- 全養協関係 4回／5名    ○中四国養協関係 2回／3名
- 県養協関係 3回／6名    ○各種専門研修 5回／7名
- 児相出前講座 2回／46名

また、全員参加の園内研修（感染症対策、救命、風水害、防犯、地域福祉法人理解）のほか、毎月、避難・消火訓練を実施した。

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
定員（暫定）	30名 (29名)	30名 (28名)	25名	25名	25名
在籍児童数	20名	21名	20名	25名	22名
職員数	19名	20名	22名	23名	25名

※職員数：臨時・パートを含む

◆令和4年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	25	24	23	22	22	22	22	23	23	23	23	23
入所	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
退所	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2

※1日付入所者は当月、1日付退所者は前月の人数に含めている

◆学年別児童数

令和5年3月31日現在

	就学前		小学校						中学校			高校			そ の 他	計
	3歳未満	3歳以上	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
男	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	2	2	1	0	0	9
女	0	3	1	1	2	1	2	2	0	0	0	0	1	0	0	13
計	0	3	1	4	2	1	2	3	0	0	2	2	2	0	0	22

◆入所主訴理由別児童数

令和5年3月31日現在

入所理由	件数	構成比	入所理由	件数	構成比
父母の行方不明	1	4.5%	虐待	4 (3)	18.2%
父母の離婚	0	0.0%	経済的理由	2	9.1%
父母の拘禁	1	4.5%	精神疾患・入院	0	0.0%
父母の傷病・入院	3	13.6%	措置変更	8	36.4%
父母の養育困難	3 (4)	13.6%	その他	0 (1)	0.0%
			合計	22	100.0%

( ) 内は、措置変更児の当初措置理由

◆一時保護委託の状況 (受託先：児童相談所)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和4年度	0名	0名	0日
令和3年度	1名	1名	2日
令和2年度	3名	3名	46日

◆子育て短期支援事業 (受託先：香南市、安芸市、香美市、芸西村、室戸市)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和4年度	1名	4名	17日
令和3年度	0名	0名	0日
令和2年度	2名	2名	8日

◆令和4年度主要な行事

- 4月 新年度編成、本館小規模ユニット開始
- 5月 香南市要保護児童対策協議会代表者会、施設実習(高知龍馬学園 中止)
- 6月 苦情解決第三者委員報告会、施設実習(高知福祉専門学校)
- 7月 七夕祭り、児相サポートケア、園内研修(交通安全)
- 8月 キャンプ、消防訓練、園内研修(救命講習)、施設実習(高知学園短大中止)
- 9月 中学校体育祭、児相出前講座1回目(トラウマ)
- 10月 幼稚園・小学校運動会、第三者評価受検、園内研修(感染症対策)、ハロウィン
- 11月 児相出前講座2回目(トラウマ)、児相サポートケア、
- 12月 開園記念日、クリスマス会、餅つき、卒園生旅行
- 05/1月 お正月、消防訓練・水防研修
- 2月 節分豆まき、園内研修(防犯、地域社会福祉法人理解)、児相サポートケア、施設実習(高知福祉専門学校)
- 3月 ひな祭り、卒業式、卒園生食事会